

本誌
略称

地理予 49(1996)

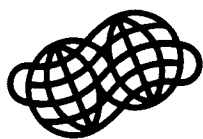
日本地理学会予稿集

49

1996年度総会・春季学術大会

3月28日～3月30日

慶應義塾大学



日本地理学会

1996

目 次

1996年度 春季学術大会プログラム（地理学評論第69巻3号の抜刷）

シンポジウム

- I. ドイツ統合に伴う地域構造の変化—ドイツ・チェコ・ハンガリー—..... 2
（3月28日、9：00～13：00、第1会場）
- II. アジアの災害にみる南北問題—突発災害と緩慢な災害—..... 16
（3月28日、9：30～12：00、第2会場）
- III. 地理教育の刷新を目指して..... 40
（3月28日、9：30～12：00、第3会場）
- IV. 地理学の社会的地位をより高めるには—地理学・地理教育の将来を論じる—.....48
（3月29日、9：30～12：05、第1会場）
- V. G I S：その応用の可能性について..... 94
（3月29日、13：00～17：00、第1会場）

一般研究発表（3月28日～29日）

- 201～220（第2会場）都市・土地利用・計量・産業交通.....112
- 301～312（第3会場）地理教育・災害・防災.....152
- 401～436（第4会場）地形・土壌・環境.....178
- 501～528（第5会場）水文・気候.....250
- 601～613（第6会場）農業・観光・山村.....306
- 701～719（第7会場）歴史・文化・社会.....332

ポスター・ビデオセッション（3月28日～29日）

- P001～P006（第8会場）.....372
（内容紹介 3月28日、12：00～12：20、第4会場）

巡 検（3月30日）

- 情報空間と地理空間.....387

参加費 1,500円 予稿集会場価格 2,500円

この予稿集49号は1996年1月18日までに受付けた特別原稿を写真製版して印刷したものです。

1996年1月

日本地理学会集会専門委員会

1996年度 春季学術大会プログラム

1996 年度春季学術大会プログラム

1996 年度春季学術大会を下記の要領で実施いたしますので、多数の会員の参加を期待いたします。

1. 大会日程

3月27日(水)	15時00分～17時30分	評議員会(アルファ館4階大会議室)
3月28日(木)	9時20分～15時40分	一般研究発表
	9時00分～13時00分	シンポジウムⅠ(第1会場)
	9時30分～12時00分	シンポジウムⅡ(第2会場)
	9時30分～12時00分	シンポジウムⅢ(第3会場)
	13時00分～15時30分	ポスター・ビデオセッション(第8会場)
	15時40分～17時00分	総会(第2会場)
	17時30分～19時30分	懇親会(学生食堂)
3月29日(金)	9時40分～17時00分	一般研究発表
	9時30分～12時05分	シンポジウムⅣ(第1会場)
	10時00分～16時00分	ポスター・ビデオセッション(第8会場)
	13時00分～17時00分	シンポジウムⅤ(第1会場)
	13時00分～17時00分	研究・作業グループ
3月30日(土)	10時00分～15時00分	巡検〈情報空間と地理空間〉

2. 大会会場

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(〒252 神奈川県藤沢市遠藤 5322 電話 0466-47-5111 内線 3153
FAX 0466-47-5041)

大会本部 ϵ (イプシロン) 館 13 番教室

第1会場 Ω (オメガ) 館 12 番教室 シンポジウムⅠ・Ⅳ・Ⅴ

第2会場 Ω (オメガ) 館 11 番教室 シンポジウムⅡ, 一般研究発表(201～220), 総会

第3会場 Ω (オメガ) 館 21 番教室 シンポジウムⅢ, 一般研究発表(301～313)

第4会場 Ω (オメガ) 館 22 番教室 一般研究発表(401～436)

第5会場 κ (カッパ) 館 23 番教室 一般研究発表(501～528)

第6会場 ϵ (イプシロン) 館 22 番教室 一般研究発表(601～613)

第7会場 ι (イオタ) 館 23 番教室 一般研究発表(701～719)

第8会場 κ (カッパ) 館 21, 22 番教室 ポスター・ビデオセッション

各種委員会および研究・作業グループは κ (カッパ), ϵ (イプシロン), ι (イオタ), o (オミクロン) 各館の1階小教室で開催します。それらの会場および時間は大会当日に掲示します。

大会以前の連絡先 慶應義塾大学環境情報学部 〒252 神奈川県藤沢市遠藤 5322 電話 0466-47-5111 (久保ないし金安) FAX 0466-47-5041

大会のインフォメーション <http://www.sfc.keio.ac.jp/~skubo/gakkai-j.html>

3. 会場への交通案内

鉄道の場合:

新宿から: 小田急江ノ島線湘南台駅下車, 駅西口から慶應大学行バス終点(所要時間約90分)。

渋谷から: 東急田園都市線中央林間駅で小田急江ノ島線に乗り換え, 湘南台駅下車, 駅西口から慶應大学行バス終点(所要時間約100分)。

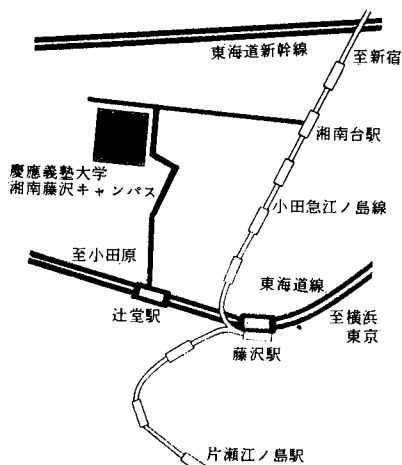
東京駅から: 東海道線辻堂駅下車, 北口から慶應大学行バス終点(所要時間約90分)。

なお, バスは湘南台線で4～8分おき(所要時間約10分), 辻堂線で8～12分(ただし, 11時台は30分)おきにありますが(所要時間約25分), 午前中のバスは大学構内まで乗り入れます。午後の便は, 大

学入りのバスターミナルが終点です。帰りの便はバスターミナルから発車します。

自動車の場合：

駐車場は構内の体育館前駐車場をご利用下さい。入構時に警備室に申し出て下さい。なお、東名横浜インターからの所要時間は通常 40～60 分、東名厚木インターからは 30～40 分、国道 1 号線戸塚バイパスからは 30～50 分です。



交通案内

小田急江ノ島線 湘南台駅下車

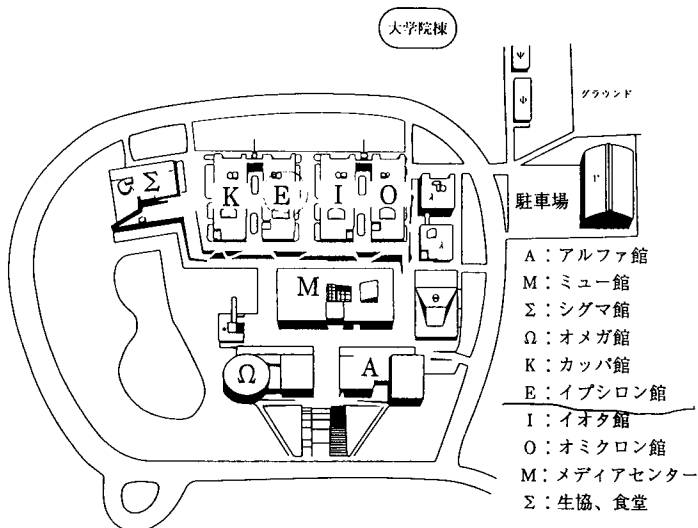
西口バスのりば「慶應大学行」 約10分

JR東海道線 辻堂駅下車

北口バスのりば「慶應大学行」 約25分

自動車で来校の場合は、

正門警備室で駐車票をお受け取り下さい。



受付、本部：イブシロン館

評議員会場：アルファ館

総会会場：オメガ館

シンポジウム会場：オメガ館

研究発表会場：オメガ、カッパ、イブシロン、オミクロン館

懇親会、食堂：シグマ館

書籍、機器展示会場：イブシロン、イオタ館

4. 会場周辺の宿泊施設について

地理学評論第 69 巻第 1 号の「1996 年度総会および春季学術大会のお知らせ（第 3 報）」を参照して、直接申し込んで下さい。

5. 大会参加の諸費用

大会参加費 1,500 円（ただし、院生・学部学生 1,000 円）

予稿集 2,500 円 会場受付で販売いたします。

懇親会会費 5,000 円（ただし、院生・学部学生 3,000 円）

巡検参加費 3,000 円（参加申込者）

大会参加費と懇親会費は当日会場で受け付けますが、それらの領収証発行は省略し、参加証（名札）の発行をもって代えます。とくに領収証を必要とされる方は、受付手続きの際にお申し出下さい。

6. 巡検の集合時間・場所

情報空間と地理空間（日帰り）

3 月 30 日（土）10 時集合、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

7. 食事の案内

3 月 28 日、29 日とも、学生食堂（シグマ館地下）が利用できます。

第1日目 3月28日(木) 午後

第 6 会 場	第 7 会 場	開始時間
〈農 業〉 601 仁平尊明(筑波大・院)：千葉県旭市における施設園芸の維持システム 602° 林 秀司(筑波大・院)：イチゴ生産地域における「とよのか」の普及過程——福岡県広川町の事例を中心として—— 603° 村田啓介(立正大・研)：通信販売方式による産地直送事業の展開過程——山形県の「サクランボ小包」事業と「メロン小包」事業を事例として—— 604° 荒木一視(旭川大)：北海道旭川市における野菜・花卉産地の成長——フードシステム論的観点からのアプローチ——	〈歴史・文化〉 701*° 戸祭由美夫(奈良女子大)：ベルギー北部における複式囲郭の宴客——Leuven, Lier2 都市の事例報告を中心に—— 702° 許 美淑(お茶の水女子大・院)：植民地時代のソウル都市開発 703 中西僚太郎(千葉大)：佐久盆地における小農的稲作複合経営の展開と構造——1880～1930年代の桜井村を事例として—— 704° 三木理史(奈良大)：石炭流通と輸送——近代の宇部「元山炭」輸送の基礎的条件—— 705*° 河島一仁(立命館大)：京都・刃物神社と南宮大社の信仰圏——東京・金山神社との比較もまじえて—— 706*° 渋谷鎮明(名古屋大・研)：朝鮮時代の林藪と裨補思想——風水思想の論理による環境保全・管理—— 707* 池谷和信(国立民族学博物館)：無文字社会における移動空間の歴史的復元の試み 708 成瀬 厚(都立大・院)：『地と図』を読む——二項対立に焦点を当てて——	13：00 13：20 13：40 14：00 14：20 14：40 15：00 15：20 15：40 総 会 17：00 17：30 懇 親 会 19：30

仁平尊明（筑波大・院）

【研究目的】

わが国においてビニルハウスの施設利用は1950年代後半からはじまり、1960年代に拡大して各地に施設園芸地域が形成されてきた。周知のように施設園芸地域（あるいは産地）の形成については、これまで多くの地理学的研究がなされてきた。しかし、施設園芸が盛んになってから四半世紀以上が経過した現在において、地域形成とは異なる視点からの分析が要請されているといえよう。そこで本研究では主産地形成後の施設園芸地域に注目し、そこでの農業生産活動を維持しているシステムを明らかにしたい。

【研究対象地域】

研究対象地域は東京から90km圏内に位置する千葉県旭市を選定した。九十九里平野の北端に位置する旭市では、海洋性の温暖な気候を活用して冬季～春季出荷型の露地野菜栽培が盛んであったが、1960年代後半から1970年代後半にかけて野菜型の施設園芸が拡大した。1994年現在、旭市における施設面積は169ha、施設園芸農家数は746戸で千葉県内最大である。施設で栽培されている現在の主な品目はキュウリ、夏秋トマト、イチゴ、ミニトマト、花き類である。

【結果の概要】

旭市における商品作物は甘藷・麦→露地野菜→施設園芸と変わり続けてきた。この施設園芸は施設園芸地域の形成期（1964年～1982年）と施設園芸地域の安定期（1983年以降）とに区分できる（第1図）。施設園芸の形成期はビニルハウスの施設化、出荷組織の設立と出荷方法の確立、行政面からの支持によって画定される。施設園芸地域の安定期においては、施設園芸農家数と施設面積はほぼ平衡であるが、1985年以降のミニトマト、1990年以降の花き類というように新しい作物が現れている（第1図）。

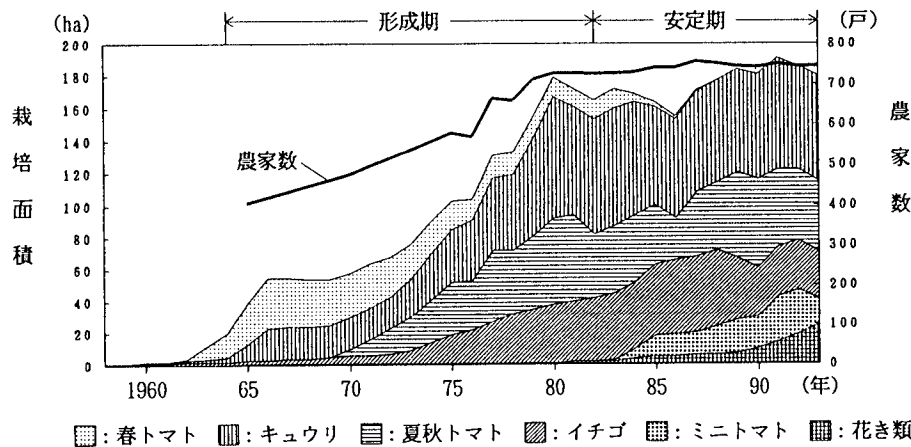
以下では、旭市の南東部に位置する野中地区を事例として、施設野菜の栽培を継続している農家（施設野菜農家）と、施設野菜から転換して花き類を栽培している農家（施設花き農家）とを比較しながら、安定期における施設園芸農家の動向を検討してみたい。

まず栽培作物の側面では、施設野菜農家は同じ品目の栽培を続けているが、例えばイチゴが春の香→宝交早生→麗紅→女峰という具合にその品種をたえず更新してきた。一方、施設花き農家は冬春トマト→イチゴ→ミニトマト→花き類というように、いわば栽培品目が野菜の一品種として転換してきた（第2図；農家番号17～21）。労働力の側面では、施設野菜農家は農作業を周年的に配分して家族労働力を完全燃焼させているが、施設花き農家は農作業を冬季に集中させて、家族2人の労働力を中心として、加えて雇用労働力を使用している。出荷の側面では、施設野菜農家は農協から共販出荷しているが、施設花き農家は個人出荷または少人数のグループによる共販出荷である。また、施設野菜農家では栽培品種の採用について出荷組織の意向が強く反映しているが、施設花き農家では農家個人の意思によって栽培品目が採用される。

このように施設野菜農家と施設花き農家とではそれぞれ高度化した施設園芸を展開しているが、以下に示すような施設園芸農家全体に共通する発展段階もまた認められる。その一つめは施設面積の拡大にともなって耕作地の集約化と粗放化が同時に進行したこと、2つめは稲作の請負作業、余剰耕地の貸付、堆肥の購入など、露地畑作農家・稲作農家・畜産農家との間に結合関係が形成されたこと、3つめは山あげ栽培や土壌の入手、農業資材業者への依存など広域的な結合関係が強化されたことである。

このように施設園芸農家全体がある発展段階を共有していることは、施設園芸が多様化

する要因となっている。しかしながら、施設園芸農家の多様化は一方向ではなくて可逆的であり、したがって施設園芸農家の大多数はつねに施設野菜農家で占められることが安定期の特色といえよう。例えば1980年代の後半から1990年代のはじめにかけて10戸の施設野菜農家が花き栽培を導入したが、そのうち6戸はこれを放棄して施設野菜栽培に戻っている(第2図)。一方、露地畑作農家や兼業的な水稲作農家は、施設園芸農家との間に農家間結合を形成しているが、これらの農家が施設園芸に転換することはない。すなわち、安定期において新たに施設園芸をはじめた農家は存在しないのである。



第1図 旭市における施設園芸農家数および施設面積の変化

農業基本調査および農業改良普及所の資料より作成

番号	区分	年 代						
		1960～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～95
1	施設野菜	■	L■	CLP■	LPC■▼	L▼	▼▼S	▼S
2				■	■▼	▼	▼	▼
3				P▼	▼	▼	▼	▼
4			P	P▼	P▼	▼	▼	▼
5				●▲	PB■W●▲	▼●▲★	●▲★	●▲★
6				P▼	P▼	▼	▼	▼★
7			B■	B■	B■▼	B■▼	B■▼	B■▼◆
8				PC	PC▼	B■▼	B■▼	B■▼
9			PC	PC	PC▼	▼	▼	▼★
10			G	G	●▲	PB■●▲	PB■●▲	PB■●▲
11					▼	▼	▼S	▼★
12					▼	▼	▼	▼★
13			B	B P	B P▼	▼	▼	▼
14					▼	▼	▼	▼
15			P	P B■	B■	B■○	○	○
16		(米)						▼★
17	施設花き			■	■▼	▼○☆	▼○☆	○☆
18				P	○●	○●	○●	○●
19				PC■▼	PC■▼	▼	▼	▼☆
20			PC	PC	P●■	■◆■○	○★	○★
21					C	C○	C○	C★

<施設作物> ■: 冬春トマト ●: キュウリ ▲: 夏秋トマト ◎: メロン ▼: イチゴ ○: ミニトマト
★: 花き類(切花) ☆: 花き類(鉢もの) ◆: その他の施設作物

<露地野菜> P: パセリ B: ブロッコリー C: シュンギク W: ネギ S: ホウレンソウ G: ピーマン

<その他> ■: 水稲 ■: ムギ類 ■: イモ類 ■: マメ類 ■: トウモロコシ ■: イチジク

第2図 旭市野中地区における栽培作物の変遷

聞き取りより作成